

No.3

STAGING A4

LED照明体感型ラボラトリー「CO-LAB」を東京虎ノ門に続き、2012年12月13日に大阪梅田にも開設いたします。空間別のシミュレーションや光源の比較を中心とする、体感訴求、お客様のニーズにあわせカスタマイズされた照明提案の実現を目的とし、机上の計算だけでは確認できない「あかり」のニュアンスを共有しながら協創できる場になれば幸いです。

東芝 LED 照明ラボラトリー「CO-LAB」
〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2丁目4番12号
梅田センタービル1F

●阪急電鉄「梅田」駅…徒歩6分 ●地下鉄御堂筋線「梅田」駅…徒歩7分 ●地下鉄谷町線「東梅田」駅…徒歩7分 ●JR「大阪」駅…徒歩10分 ●阪神電鉄「梅田」駅…徒歩9分

効率

LED照明講座 第6回

	ハロゲン電球	蛍光灯	LED
エネルギー消費量	エネルギー8割が赤外線として放出され、可視光に変換されるのは1割程度。	約3割が赤外線・紫外線として放出され、約4割が回路上での損失。可視光に変換されるのは3割程度。	約7割が回路上での損失となり、可視光に変換されるのは約3割。
エネルギー変換効率	損失 約10% 赤外放射 約80% 可視光放射 6~12%	管エネ 損失 約40% 赤外放射・紫外放射 約30% 可視光放射 25~29%	管エネ 損失 約68~70% 可視光放射 25~30%
発光効率	20ml/W	90~110ml/W	~100ml/W~
寿命	1,000時間	5,000~10,000時間	20,000~50,000時間

「LEDは省エネ」とよく言われますが、ハロゲン電球・蛍光灯・LEDで違いを比較してみましょう。光源はエネルギーを人が明るさを感じる「可視光線」と、赤外線や

紫外線等の目には見えない「不可視光線」に変換して放出しています。また、その際に回路上で熱などに交換される損失が発生しています。同じ量のエネルギーから効率よく「可視光線」へ変換出来れば、より「省エネルギー」になります。

LEDはハロゲンや蛍光灯よりも、寿命が長く、また今後の技術開発により発光効率も向上し、さらに「省エネ」化が進んでいきます。

空の観測法 第七回「単位」

連載コラム / 幸和紀

「二尺〇・三〇三〇三メートル」よりによって「三」である。九の「三」の段には、苦手な子どもが多い。割り算に至っては、厄介極まりないのが「三」だ。

しかし、しばらくして気付いた。換算するからダメなのだ。「二尺」は「一尺」として身に付けてしまえば「そう云うものだ」で済む。だが、「尺」を身に付けたつもりでも油断は禁物だ。ある時、渡された仕込み図に長さの目安としてペースケールが描かれていたが、そこに「単位ⅡK」とあった。とっさに思い出したのは、高校で習った「ケルビン」で、それは温度の単位である。仕込み図に、なぜ温度なのか。仕込み図に温もりがあったら、嫌だ。作図した人に尋ねた。

「ああ、それ、一間。六尺ね」漢字で書くべきではないのか。そこへ別の人が「長尺は十二フィートまで」とか云い、「それを五百ピッチで並べて」と口走る。後者は「ミリ」だ。もうJIS規格など台無しな世界である。せめてもの救いは、「重量は二百ポンドまで」と云われないことだろうか。

「長さ」だけでも単位は厄介なのに、照明さんは「フェーダーを5%上げて」と会話し、音響さんは「うん、二デシ下げ」とデシベル単位で喋る。絶対音感などより驚異な人々の群棲地帯だと思ふ。

幸和紀(ゆきかずのり)
株式会社テトラロジックスタジオ代表

「A4 NEO」
「Season 3 #003」

何やら呪文みたいな文字の群れに見えたのは、なぜでしょうか。アルファベットで、大文字だけで、手書きだからかと思っただけですが、そもそも意味を理解するだけの学力も無いので仕方ありません。そのうえ、貼り紙が奇妙に分かれています。ちなみに、直訳すると「オーケストラピット 左」だそうです。ドイツ語です。学生時代に「不可」でした。どうでもいいことです。



それにしても、しつこいようですけど、貼り紙の分かれ方が気になります。書いていくうちに紙が足りなくなるのなら、もう少し右側で継ぎ足しになりませんか？ ド真ん中ですよ、これ。この貼り方だと、右側を上から貼っています。やっぱ、最初の左側は「G」に続いて呪文が隠れています。「オーケストラ迎春祝福」とかです。呪文だから大文字で手書きなのです。左端は矢印ではなくて、破魔矢です。ふと、筆ペンで「舞台吊物機構操作盤」と書いてみました。お経のように見えなくてもいいです。(エキストラM.C)



ヨーロッパへ劇場文化の勉強というところで行って来ました。日本の劇場よりも豪華な建物の外観や内装にシヨックを受け、音楽や芸術に対する歴史や思い入れが深いことに感銘を受けました。

ベルリンのシラー劇場にて、ブッチーニのオペラ「トスカ」(Tosca)を鑑賞。エントランスにて開場の前に、近所のパン屋のおじさんと思われる人からドーナツのようなものを購入、これが結構おいしかった。客席内に入ると薄暗い印象。この劇場の一階席には縦の通路が両脇にしか無く通路側の人々は中央席の人々が着席まで壁際で待つのがマナーのようでした。本編はイタリア語上演にドイツ語字幕ということで、自分の頭の中に記憶しているストーリーと照らし合わせて進んで行くのだが、歌と演奏はすばらしくふわふわした気持ちになり現実感の無い時間を過ごしました。(大盛のO)



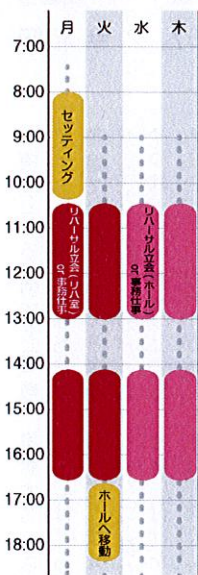
のしあた〜 Going
「欧州劇場巡り」



生田 修一(いくた・しゅういち)
兵庫芸術文化センター管弦楽団ステージマネージャー。平成8年同志社大学神学部卒。在学中同志社交響楽団でテロを弾く傍ら、京都市交響楽団のアルバイトでステージマネジメントを学ぶ。卒業後に就職した商社で北米との貿易を担当し、その間2年半米国シカゴに駐在。帰国後は舞エス・エム・エスに所属しザ・シンフォニーホール、京都コンサートホールのステージマネージャーとして活動。平成16年より現職。平成23年より兵庫県立芸術文化センター舞台技術部業務。

ステージマネージャーの仕事
生田 修一氏 (その2)

定期演奏会 リハーサル日の動き



編…定期演奏会のリハーサル(以下リハ)はどの程度されていますか？
生田…4日間です。月、火曜日はリハ室で、水、木曜日を大ホールの舞台で行います。金曜日の午前中はゲネプロです。うちは、日本ではめずらしい劇場付のオーケストラということなので、場所はすごく恵まれています。35歳以下の若い奏者を基本として集めているので、プロのオーケストラではあってもリハは貴重な勉強の場でもあって、芸術監督の佐渡の意向もあり、できるだけホール響きを感じながら音を出すことを重視してリハをします。よそのオーケストラで定期演奏会のリハに4日間取るといことはあまり無いですね。
編…たいてい3日間ですよ。
生田…ベテランの楽員さんだと、長期間のリハは必要なくて、そのオーケストラではレパートリーになつてくる曲では3日間取らない事もあります。うちの楽員は3年間で入れ替わってしまうので、よく演奏する曲でも、私初めてなんですという人もいて、リハは特に念入りによつています。
編…ステージマネージャーの動きを。
生田…指揮者が佐渡の時と客演指揮者の時とはスケジュールが違いますが、佐渡の場合は10:00から13:00までと、14:00から17:00までリハをします。私は、たとえば月曜日に仕込みをする時は、13:00に事務所に入り10:00からひな壇を舞台さんに組んでもらい10:00から椅子・譜面台・打楽器・指揮台等のセッティングをします。10:00頃から楽員が入ってくるので順次、この場所では指揮者が見えないとかこの楽器よりこつちの楽器を用意してほしいとかの個々のリクエストの対応をしています。
編…リハ中はいかがですか？
生田…初日は指揮者からの前情報である程度私が並べた配置なのですが、実際にやってみて指揮者がしつこりこないとかの指示で変更したり。もちろんリハ室なので聞こえ方はホールとは違うのですがそれでも違和感があるとか。部屋に入らない時には、次の演奏会の準備や、楽器調整の手配等、基本的に事務仕事です。うちの場合は恵まれていてリハ室のすぐ前に事務所があるので、リハで何か起こった時にすぐ対応出来るのが良いですね。他には、演奏を聴いた時に、たとえば奏者がどうもしつこりいていないとか、顔を見て感じる時があるので相談に乗るなどの対応をします。
編…リハの終わりが10:00。
生田…火曜日の場合、ホールが空いていけばそこから仕込みができるのでリハ室をばらしてから大ホールを組んでしまうこともあります。(続く)